

発行所：海尻山医王院寺務所
〒 384-1301 長野県南佐久郡南牧村海尻 528
電話：0267-96-2631
Eメール：iouin@dia.janis.or.jp



醫王院時報



厄難消除
諸願成就

新たに不動明王が開眼される

人々の厄災を除き、悪しき心を戒める憤怒の相

剣を持ち、炎を纏う異形の仏さま

去る平成二十三年四月、海尻山醫王院に当院の篤信者より不動明王像一昧が寄進された。先祖代々の追善菩提のために奉納されたもの。

平成二十三年四月、醫王院本堂において不動明王像の開眼法要が厳修されました。尊像(写真①)は、身丈六〇cm、上野浅草の江戸仏師の手により造立されたもの。当院の篤信者により、先祖代々の霊位追善菩提のために当院に寄進されたものです。

不動明王は、観音菩薩、阿弥陀如来などと並び、日本で特に深い信仰を集める仏さまです。「お不動さん」の名で親しまれ、無動尊、不動尊とも呼ばれます。同尊を本尊とする有名な寺院では、千葉の成田山新勝寺(真言宗智山派)、東京の目黒不動瀧泉寺

(天台宗) などですが、近年は各所を巡る不動尊の霊場なども注目され、多くの善男善女で賑わっているようです。

不動明王とは、インドの古語・サンスクリット語で「アチャラ・ナータ・ヴィッドヤ・ラージャー」といい、「揺るぎなき守護者・智慧を有する偉大な人」という意味です。日本では五大明王の一員としてもよく知られております。五大明王とは、「不動明王」「降三世明王」「軍荼利明王」「大威徳明王」「烏枢沙摩明王(又は、金剛夜叉明王)」の五尊です。



▲写真① 新たに開眼された不動明王。明王《ヴィッドヤ・ラージャー》とは、仏教の世界観の中では、如来・菩薩につぐカテゴリーに配せられる。また、如来・菩薩の化身とも言われる。特徴的な姿と他にはない供養の方法から日本では根強い信仰を集める仏である。

如来菩薩明王天人畜生など(三悪道)



↑写真② 護摩法を修する僧侶。日本では天台宗と真言宗でのみ修せられる。一般的に密教と呼ばれるジャンルに属す。



→写真③ 当院に伝わる“もう一体の不動明王”。傷みも激しく、仏具も揃わないが、想いを今に伝える迫力を有する。

菩薩には見られない特徴的なお姿(十九の特徴といわれる)をしています。例えば、「憤怒の相(怒った顔)」「迦楼羅焰(火炎を背負う)」「天地眼(両目で天・地を睨む)」「剣や縛り上げる綱索を持つ」などです。

一つ一つに深い意味がありますが、「憤怒の相」は、仏教に仇をなす者を屈服させると共に、私たちのもつ煩惱に対する怒りを表しています。母親が子供を叱るのも、深い愛情に裏打ちされているように、怒鳴りついたり剣で叱らなければ理解しない程、迷っている私たちでさえ、救

つてくださるのです。この「憤怒の相」の裏に隠れている深い慈悲のお心を私たちは受け止めるべきでしょう。

また不動尊には、「護摩」といわれる特別な法要が修せられることも良く知られています(写真②)。火炉に細長い薪木を入れて燃やし、種々の供物を投げ入れ、仏さまに願いをかけるのです。

これは古くインドのヴェーダ時代(今から三千年前)から行われてきた法要で、後に仏教に取り入れられ、日本には、慈覚大師円仁によって、千二百年前に伝えられました。人々の厄難を除く法要として、宮中を始め古来より広く信仰を集めております。

当院住職は「このような素晴らしいお不動様をお迎えすることができて、大変有難いことです。当院には残念ながら護摩供を修する護摩壇や仏具が伝わっていませんが、

もう一体の不動明王

いずれは整備し、檀信徒の皆様と共に祈願ができれば」と感謝の意を述べています。

海尻山醫王院には、享保年に造立された不動明王(写真③)が収蔵されている。裏書には「享保十六年(1731)辛亥九月吉日 下海瀨村大徳院 天下太平國土安全 奉建立不動明王」とあり、三百年ほど前の尊像である。

明治の廃仏毀釈の折に、紆余曲折を経て、当院に移されたものといわれている。損傷も激しく、手に持つ剣などは失われてしまっており、文化的価値を有するものではないが、大切に収蔵庫にて保管されている。

享保年間には、大飢饉など多くの厄災があったとされる。平安を祈る人々の往時の心を今に伝える尊像である。

講中 節分会

平成 24 年 (辰年) 2 月 3 日

平成 24 年 2 月 3 日、第 26 回目を迎える海尻山醫王院講中節分会が開催された。主催は節分会世話人会 (八人会)。厄除け法要の後、集まった善男善女は、思い思いに願いを込めて豆をまいた。



▲《鬼は外！福は内！！》と共に豆がまかれる



▲ 般若心経を皆で唱える
▼ 沢山拾えたかな？



節分会の主催者は「去年は震災の年で暗いことが多かったけれども、今日みんなの笑顔のように多くの人に福が来る良い一年であってほしい」と話していた。節分会は来年も開催される予定。

福が来ますように

本年度第二十六回目を迎える節分会には、豆まき衆として約二十名が参加、本堂での厄除け法要にて全員で般若心経をお唱えし、一年間の無病

息災・厄難招福などを祈念した。今年、例年にない寒波が押し寄せていることもあり、境内は正午を過ぎても氷点下 5 度。凍えるような寒さにもかかわらず、境内には多くの

参詣者が集まり、「豆まきのはじまりを待ち構えていた。十六時からはじめられた『豆まき』では、『鬼は外！福は内！』のかけ声とともに、福豆やお菓子などがまかれ、小さな子どもたちも、豆をつかもうと懸命に腕を伸ばしていた。

その中で中心的な役割をされてきた青年僧に話を聞いた。彼は山形県の寺院の副住職で、仲間と共に週に一、二回現地で支援活動をしている。今はその活動が認められ、山形県ボランティア協議会に参加し、ボランティアのマニュアル作りにも携わるなど活躍している。それまでボランティアとは無縁だったという彼は、震災直後には「色々悩みました」と苦笑した。「マスコミはいいことは

毎週通う仮設住宅が閉鎖されるまで、彼らは活動を続けていくという。

東日本大震災から早くも一年が過ぎ去った。多くのボランティアが被災地に訪れ、復興支援に汗を流してきた。「全国社会福祉協議会」の調べによると、ボランティア数は、八十五万人に上るといふ。天台宗でも青年僧が中心となり、約八百名、千四百日間(いずれも延べ)支援活動をしてきた。地震発生当初は、物資の搬入、炊き出し、駅前での鉢鉢、亡くなった方々のご回向などで、現在は支援先の仮設住宅で、カフェを設置し、被災者の心の癒しや悩みや話を聞いたりする傾聴活動もしている。

『法句経(ダンマ・パダ)』
うではありません。ボランティア団体間の主導権争いみたいなこともありましたが、支援物資を石巻市内の寺院本堂に並べて、配布したけれども一人で全部持つて行ってしまおうとした人もいました」「印象に残っているのは、こちらがお坊さんだと分かると、お坊さんは死を連想させるから、避難所には来ないでくれと言われたこと」「ボランティア団体の会議で、ある団体の方から、宗教観、宗教者であることを隠せという指示があったこと」など、その活動が認められるまで色々なことを言われ、苦しい思いをしたという。

ブツダの言葉

天台宗寺院紹介 ③

曼殊院門跡



右上) 虎の間襖絵(重文)：狩野派一門永徳の筆

右下) 大書院：小堀遠州造の枯山水庭園

左) 黄不動明王図像(国宝)：黄色いことから「黄不動」といわれ、青蓮院の「青不動」、高野山の「赤不動」とともに三不動と呼ばれている。

曼殊院は伝教大師によって延暦年中に開創されたのをその起源とする。天曆年間足利国師のとき比叡山西塔に移り東尾坊と号した。その後、曼殊院と改め、文明年間に慈運大僧正が入寺して以来、曼殊院は門跡寺院となる。明暦二年御所北あたりに移転していた曼殊院を第二十九世良尚法親王が奏請し、この地に堂宇を構営され現在に至っている。庭園や建築の中に古今和歌集の文学精神を取り入れ、造営されたのが桂離宮と曼殊院であるといわれるが、良尚法親王は桂離宮を造営された八条宮智仁親王の第二皇子である。現在も桂離宮の美の流れを脈々と継承して、静誰なたたずまいを今に残す。

曼殊院門跡

住所：京都市左京区一乗寺竹ノ内町42
拝観時間：八時半～十七時(受付：十六時半まで)
拝観料：一般 600 円 学生 500 円 八窓軒茶室 1000 円
詳しくは、HP (<http://www.manshuinmonzeki.jp/>) をご覧下さい。